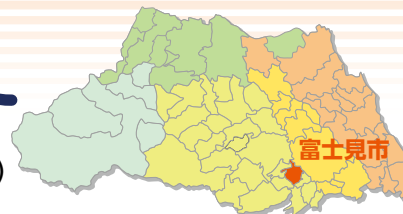




県内首長インタビュー③

富士見市 星野 信吾 市長(60歳)



「人と人の輪(和)が何よりも大切」と語る星野信吾市長

■子育てするなら富士見市で！

3年前に市制40周年を迎えた富士見市は、東武東上線のみずほ台駅、鶴瀬駅、ふじみ野駅の3駅が南北に設置されており、平成20年には、東武東上線と東京メトロ有楽町線に加えて副都心線の相互乗り入れが実現。さらに平成25年には、東急東横線、横浜高速みなとみらい線との相互直通運転が開始し、鉄道面での利便性が格段に向上した。

また、南北方向に国道254号（川越街道、富士見川越バイパス）が、東西方向に国道463号（浦和所沢バイパス）が走り、周辺都市を結ぶ主要道路が整備されている。



「子ども大学」と「子どもスポーツ大学」には毎回定員を上回る応募がある。今年度は新たに「子ども文化芸術大学」が開講され、市では、未来を担う子どもたちに大きな期待を寄せている。



このような交通網の発達や、都心30km圏という好立地もあり、富士見市は人口が増え続けている。また、人口増加の背景には「子育てするなら富士見市で！」の理念のもと、さまざまな施策を子どもたちの健やかな成長のための環境整備として取り組んできたことも大きな要因だ。

星野市長は、平成27年8月で就任8年目を迎えるが、この7年間で7つの保育園を増設、中学までの医療費の無料化、全小・中学校のエアコン完備や耐震補強など、さまざまな子育て環境整備を行ってきた。また、小児救急患者については、県や周辺市町と協力し、輪番制による受入体制を整えている。このような取組みの中、ここ数年の合計特殊出生率は上昇しているが、富士見市においても少子化の問題は避けられないのが現実だ。

市ではこうした厳しい現実を見据え、将来を担う子どもたちの健全な育成のために、県内の多くの自治体を実施している「子ども大学」に加え、市独自の取組みとして、オリンピック金メダリストによるレスリングや大学馬術部による乗馬、ハンドボールなど、普段では経験できないような指導者のもとで、魅力的な講座が用意されている「子どもスポーツ大学」を平成26年度に開講。さらに27年度は、一流の演出家や音楽家などを講師に迎えた「子ども文化芸術大学」を開講する。こ

ちらも普段経験できないような世界に触れることができる。富士見市では28年度にも新たな子ども大学を開講予定で、4つの子ども大学で子どもたちが興味のある分野に触れ、富士見市の将来への布石となるよう期待している。

■沿線最大級商業施設で人が集まるまちに

4月10日、富士見市の市制記念日に「ららぽーと富士見」が開業する。開発区域面積は、17.7万㎡。延床面積18.5万㎡に293もの店舗が出店する東武東上線沿線最大規模の大型商業施設である。

平成15年度に立ち上った誘致計画であるが、平成20年に白紙となった後、その原因を徹底的に検証し、地権者や関係者に対して市長自ら説明に足を運び理解を得た。星野市長は「活力あるまちづくりには、人が集まらなくてはならない」とし、ららぽーと富士見の開業で、市内はもちろん、市外からも多くの来場者が訪れて賑わうことを期待している。

ららぽーと富士見は、「人・モノ・文化が交差する新拠点」をコンセプトとしており、前例のない特徴が満載だ。全国のららぽーと最大となる42,000㎡もの緑化面積を確保。ドッグランやフットサルコートも設けられた。テナントには地元の「JAいるま野」が出店。地産地消や食農教育を推進し、農業体験やバーベキューも楽しめる。さらに認可保育園やクリニックモールも出店するなど、子どもから高齢者まで全世代が集い・楽しめる交流の場となっている。

■これからも市民目線の改革を推進！

星野市長は、就任直後から全国の自治体でも例を見ない市長マニフェスト「富士見市元気計画」を掲げ、徹底した行財政改革を推進してきた。国に先駆けて全国初の「市民参加型市民判名人」による事業仕分けを行い、市

富士見市の概要

人口(H26年埼玉県町(丁)字別人口調査)	108,469人
世帯数(同上)	47,562世帯
平均年齢(同上)	43.8歳
生産年齢人口比率(同上)	64.2%
面積(H25年全国都道府県市区町村別面積調)	19.7平方キロメートル
名目市内総生産(H23年度市町村経済計算)	1,681億3,000万円
事業所数(H24年工業統計)	54事業所
製造品出荷額等(同上)	200億5,997万円
事業所数(H24年経済センサス)	2,814事業所



ららぽーと富士見へは、東武東上線「鶴瀬駅」より徒歩約20分。また、「鶴瀬駅」「ふじみ野駅」「志木駅」、JR「大宮駅」「南与野駅」よりバスが乗り入れる。富士見川越バイパスを挟み、富士見市役所や文化会館「キラリ☆ふじみ」、体育館、図書館などが隣接する市の中心に位置する。

外観・内観イメージ



民目線の判定を政策に反映し、就任1期目の4年間で、51億2千万円もの債務を減額。また、職員数を約1割削減・事務事業の見直しなど、14億8千万円もの節減を実現した。就任2期目の現在も市民目線に立ち、「埼玉県内ナンバーワン」の行財政改革を目指して取り組んでいる。

こうした積極的な行財政改革の取組みで創出された財源を有効活用し、前述の子育て支援事業や市民サービスの向上に努めている。そのひとつが道路・交通網の整備だ。ららぽーと富士見の開業に合わせて、さいたま市や志木市方面からの路線バスの乗り入れが開始される。市役所の最寄りの鶴瀬駅では、路線バスの乗り入れや大型車両の進入ができるよう、東口の整備が行われ、西口では駅前広場の整備が進められている。さらに、中核都市としてバランスある発展を図るため、地域の実情にあったまちづくりが進められる予定だ。

富士見市は、その交通の利便性により、住民の3割近くが東京都内に移動するため、昼夜間人口比率は県内で最下位となっている。ららぽーと富士見の開業で、4,000人近い雇用創出に繋がる見込みだが、これをきっかけに、昼間の人の流れが大きく変わり、「人が集まり、交流するまち」となることに期待している。大きな転換期を迎えた富士見市であるが、これからも変化を続けていきそうだ。